

アスベスト 検出キット

型式 DK-ASB-2

使用法

DPD発色法による
DPD Coloring Method

主試薬 N,N-ジエチル-p-フェニレンジアミン硫酸塩

適用建材 石綿含有建材 材料レベル1~3

検出範囲 石綿含有率 2%以上

測定時間 約5分

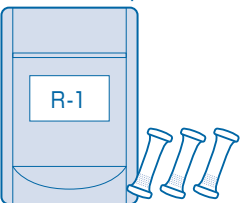
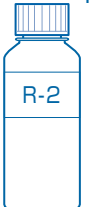
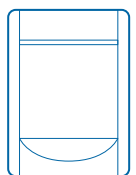
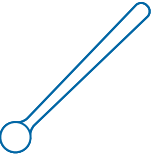


GHSマーク



警告

梱包内容

()内は用途

<p>R-1試薬 【材質:PE(チューブ)】 20本</p>  <p>(発色試薬)</p>	<p>R-2試薬 【材質:PE(容器)】 1本</p>  <p>(検液の調製)</p>	<p>チャック袋 【材質:NY/PE】 20枚</p>  <p>(反応容器)</p>
<p>さじ 【材質:PS】 1本</p>  <p>(検体の採取用)</p>	<p>カップ 【材質:PP】 1個</p>  <p>(R-2試薬の分取用)</p>	<p>標準色 【材質:紙】 1枚</p>  <p>(石綿の判定用)</p>

特徴

- この製品は、広島県立総合技術研究所保健環境センターにより開発された特許技術(特許 第6781441号,第6864892号)を用いており、広島県とのライセンス契約に基づく製品です。
- 石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル(厚生労働省,2.20版,平成30年3月)における材料レベル1(石綿含有吹付け材)、材料レベル2(石綿含有耐火被覆材、石綿含有断熱材、石綿含有保温材)、および材料レベル3(その他石綿含有成形板)を対象に石綿(アスベスト)の含有を簡便な操作で判定できます。
- 建築物の解体・改修工事現場での試料サンプリング時や、精密分析前のスクリーニングなどにおいて、建材中の石綿の含有が約5分で判定できます。
- 本製品では、石綿の含有率は測定できません。
- 本製品の使用は、日本国内に限ります。

使用前、使用後の取扱い注意

応急措置

試薬・検液が **目に入ってしまったら** → すぐに多量の水で洗い流してください。

試薬・検液が **皮膚や衣服にふれたら** → すぐに水で洗い流してください。

試薬・検液が **口に入ってしまったら** → すぐに水で口の中を洗い流してください。

試薬・検液を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。特に試薬を飲み込んだ場合には、水または牛乳を多量に飲み、すぐに医師の診断を受けてください。試薬の有害性については外箱背面の「GHSに基づく表示」をご参照ください。

保管

試薬は、乾暗所(常温)で保管してください。R-1試薬は袋のチャックを閉めて密封保存してください。特に夏場や梅雨時には保存状態により、数日で試薬が劣化することもあります。

廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。石綿が含有していた場合、使用後のチャック袋は、廃石綿等と同様に処理してください。

試薬に関するお知らせ

本製品は、取扱い者へのSDSの提供を義務づけた「PRTR法」、「労働安全衛生法」および「毒物及び劇物取締法」には該当しません。



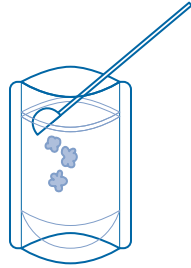
株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

神奈川県横浜市緑区白山1-18-2
ジャーマンインダストリーパーク
TEL: 045-482-6937

測り方

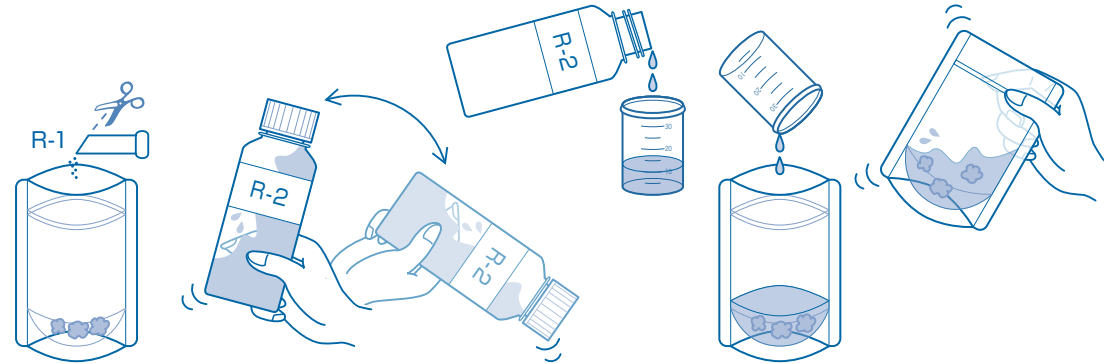
※検体を取り扱う際には、取扱い環境に応じた適切な保護具を着用してください。

1. 検体の分取



- ①チャック袋を開き自立させ、検体を付属のさじで0.1g*採取し入れます。
※綿状の検体の場合、さじ半分~1杯、粉体や礫の場合、さじ1/4~1/3で約0.1gです。検体により高密度が異なるため、厳密な量が必要な場合は電子天秤で量り採ってください。

2. 試薬の添加

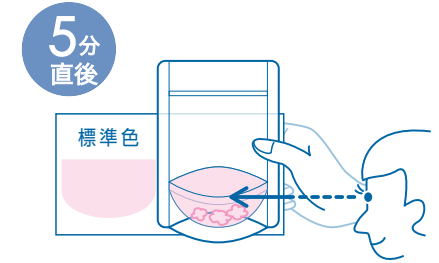


- ②①にR-1試薬を加えます。

- ③R-2試薬を上下に転倒してよく振り混ぜます。

- ④R-2試薬をカップに10mL分取し、②に入れます。チャックをしっかりと閉めて、5~6回程度振り混ぜます。これを検液とします。

3. 発色の確認



- ⑤5分直後に検液の色と標準色を比色します。チャック袋を標準色の点線に合わせて密着させ、目の高さで比色します。この時、チャック袋のマチは広げたままにします。検液の色が標準色よりも濃い場合、石綿を2%以上含有しているおそれがあると判定します。

注意

1. 建材中の石綿の含有率が高いほど、発色が強くなります。
2. 建材の種類によっては、石綿が含まれない場合であっても、発色する場合があります。また、発色がない場合でも、石綿が非含有である証明にはなりません。公定分析法に従い確認してください。
3. 「測り方」④の検液は、長時間放置すると着色や退色する場合があります。必ず5分直後の発色をご確認ください。
4. カップ、さじは繰り返し使用します。前の検体の影響がないように、よく拭きとるなどしてからご使用ください。チャック袋は1回ごとに使い捨てです。
5. R-2試薬および検液の温度は20~30℃で測定してください。
6. 発色時の検液のpHは約6です。
7. 屋内で測定してください。屋外では紫外線により、石綿の有無に関わらず検液が薄桃色に発色する場合があります。

共存物質の影響

下記は、検液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

100mg/L 以下は影響しない	...	Al ³⁺ 、B ³⁺ (ほう酸)、Ba ²⁺ 、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、Co ²⁺ 、Cr ³⁺ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Mn ²⁺ 、Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺ 、フェノール	
50mg/L	//	...	Ni ²⁺ 、シリカ(溶解性)
10mg/L	//	...	Ag ⁺
1mg/L	//	...	Fe ³⁺ 、NO ₂ ⁻
少しでも影響する	Cr ⁶⁺ (クロム酸)、Cu ²⁺ 、Fe ²⁺ 、V ⁵⁺ (バナジン酸)、残留塩素	

酸化性物質、還元性物質は発色に影響を与えます。